セットシリーズ

竹演 （ちくえん） 14

施工説明

※ 竹演セットのアルミ部材や竹材料は融通性を持たせるため、穴あけ加工はされていません。現地にて加工してください。

■骨組図

■取付図

【竹演セット】

①アルミ支柱（60×60）、アルミチャンネル（ブロンズ 27×27）、アルミ胴縁（イエロー 23×50）を現場に合わせてカットして下さい。

注: 竹演セット 14 のアルミ支柱は 2,400 ㎜にアルミ胴縁、アルミチャンネルは 1,800 ㎜にカットされています。
（H1,500 時：アルミ支柱 2,100 ㎜
アルミチャンネル 1,500 ㎜）
（H1,200 時：アルミ支柱 1,650 ㎜
アルミチャンネル 1,200 ㎜）

②アルミ支柱中央にアルミチャンネルを取付て下さい。取付位置は、アルミ支柱の上から 50 ㎜下がった所からです。取付はブロンズビス 4×16 を使用して下さい。アルミ支柱をモルタル等で固定して下さい。

注: ブロンズビスで直接止めにくい場合、アルミチャンネルにドリルで下穴（5mm）を空け、ブロンズビスで支柱に固定して下さい。

注: 300 ㎜ピッチ位を目安にビス止めして下さい。

③アルミチャンネルの溝に一番下のアルミ胴縁を取付けて下さい。取付はブロンズビス 4×16 を使用して下さい。

注: 胴縁は凹部を下にして取付けて下さい。

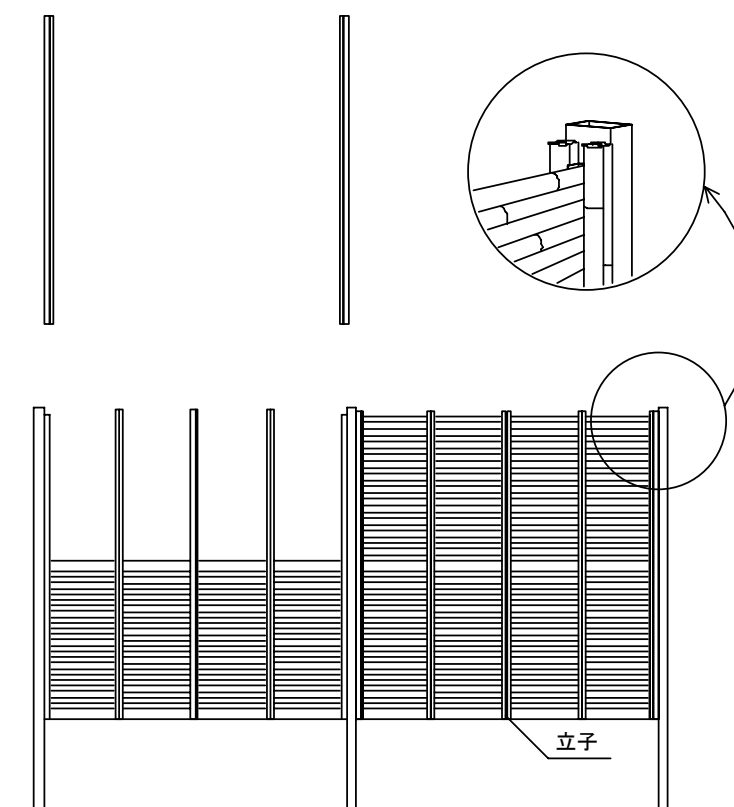
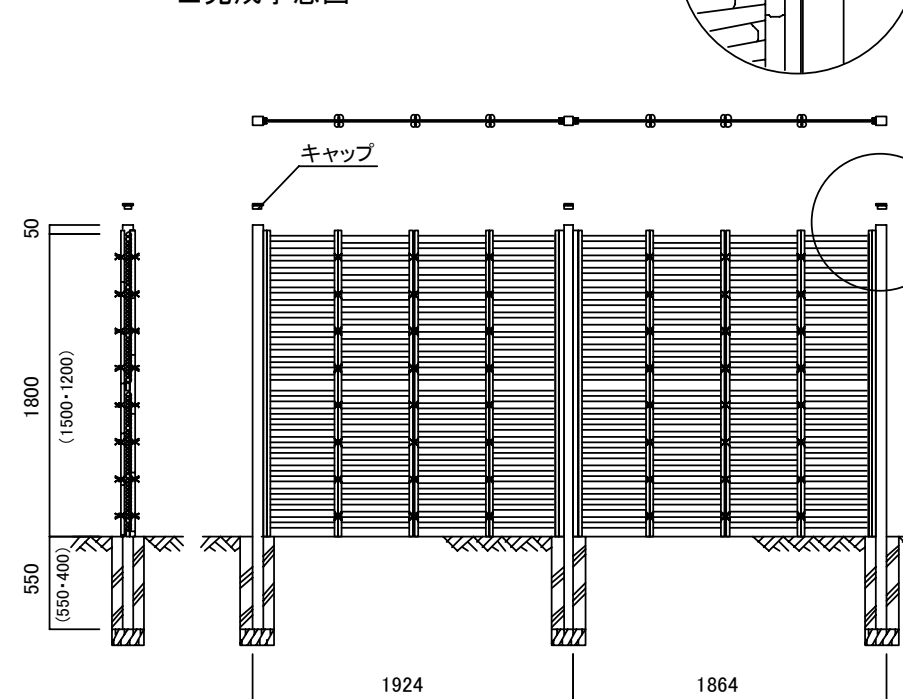
注: ビス止めの位置は、凹部側より10ミリひかえた所からにして下さい。（図1参照）

注: ブロンズビスで直接止めにくい場合は、アルミチャンネルにドリルで下穴（5mm）を空け、ブロンズビスで胴縁に固定して下さい。

注: 少なくとも、1ヶ所 2 本のビスで固定して下さい。

④組子（丸竹 22φ）と立子（丸竹 22φ）をカットします。組子はアルミ胴縁の長さより 10 ㎜短く、立子は竹垣の高さより 30 ㎜長く（H1800、H1500 時）カットして下さい。

注: 竹演セット 14 の組子及び立子は定尺にカットされています。

■立子取付図

■完成予想図

⑤アルミチャンネルの溝に組子を入れていきます。中程まで入れたら、アルミ胴縁を入れてください。
但し、H1200 はアルミ胴縁が中間には入りません。

注: 胴縁は凹部を下にして入れて下さい。

注: この時点では、アルミ胴縁をビスで固定しないで下さい。

注: 組子を入れていく時に立子にて締めながら竹を入れていきます。

⑥組子を入れ立子で前後から挟み込み、銅線にて締めつけて下さい。立子は一番下のアルミ胴縁にビス止め（4×35）して下さい。組子をきれいに収め終えたら、アルミ胴縁をブロンズビス 4×16 で固定して下さい。

注: ブロンズビスで直接止めにくい場合、アルミチャンネルにドリルで下穴（5mm）を空け、ブロンズビスで胴縁に固定して下さい。

注: 少なくとも、1ヶ所 2 本のビスで固定して下さい。

注: 約 220 ㎜ピッチで銅線を締めていきますが、銅線の上にバンロープで飾り付けしますので、銅線の位置にも注意を払って下さい。

⑦アルミ支柱横の立子を取付けて下さい。取付はイエロービス 4×35 を使用して下さい。

⑧バンロープで飾り付けて下さい。

注: バンロープは組子の中を通さずに、立子と組子のすき間に通し表面と裏面別々に飾り付けて下さい。

⑨アルミ支柱にキャップをはめてください。

施工道具、工具

巻 尺

水平器

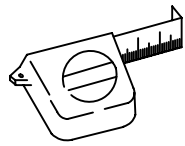
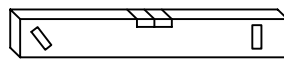
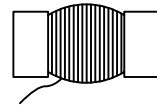
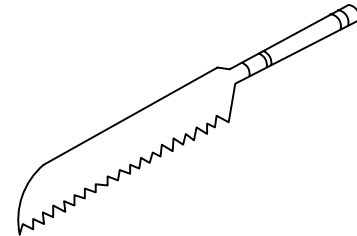
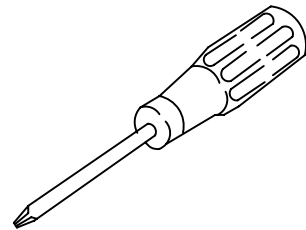
水 糸

穴堀り用スコップ

スコップ

ノコギリ

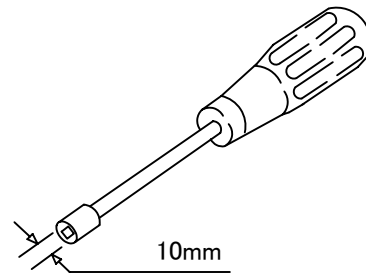
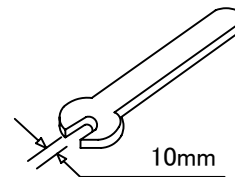
10mm

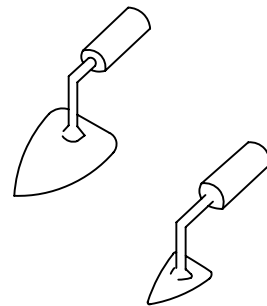
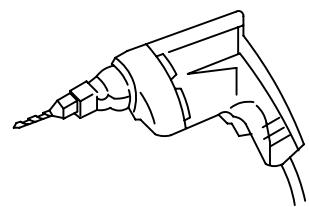
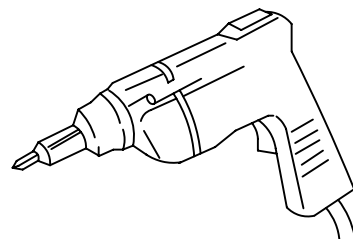
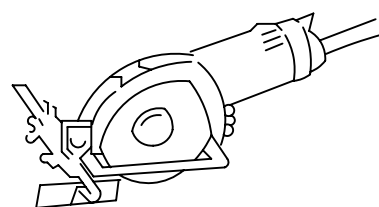
10mm

⊕ドライバー

ボックスドライバー

レンチ

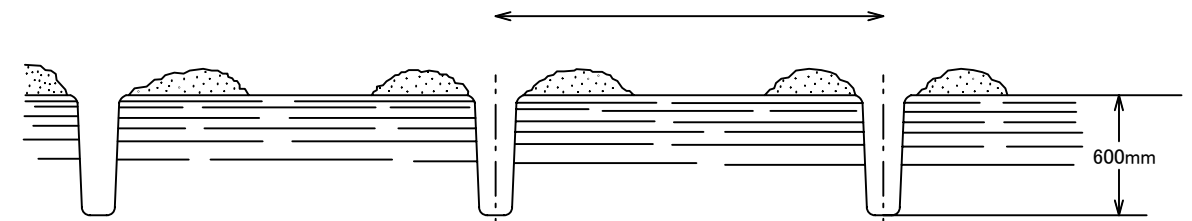
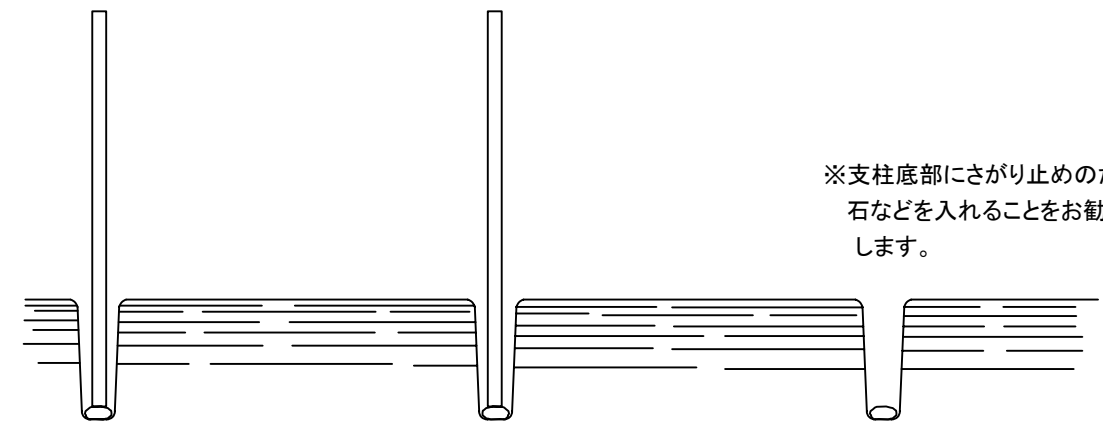
石少

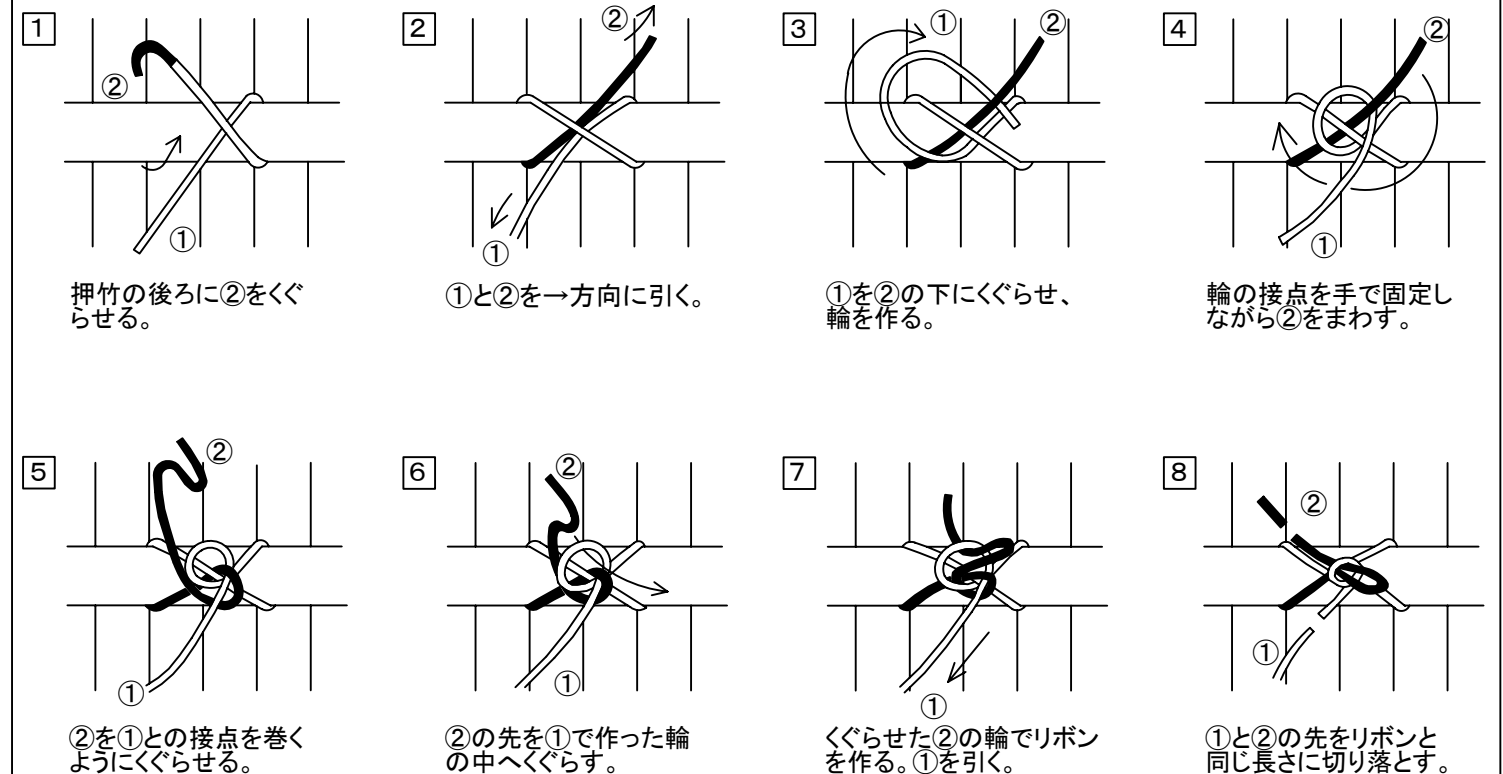
砂

セメント

セメント、工具一式

コ テ

ドリル

スクリュードライバー

サンダー

基礎作業および細部取付図

基礎作業 1 地中に穴をあけます。

※タイプにより柱ピッチが違います。
確認のうえ、施工して下さい。

2 柱の高さ、並びなどをよく確認しながらモルタル等で固めてください。

※支柱底部にさがり止めのため、
石などを入れることをお勧め
します。

<バンロープ（シュロ縄）の結び方>

※結び終えたらバンロープの先がほつれないよう火で焼いてください。